

1. 消化管ホルモンはどれか。
 - (a) leptin
 - (b) incretin
 - (c) prolactin
 - (d) adiponectin
 - (e) erythropoietin
2. 胃全摘後に欠乏しやすい栄養素を2つ選べ。
 - (a) 鉄
 - (b) 銅
 - (c) 葉酸
 - (d) ビタミン B6
 - (e) ビタミン B12
3. PIVKA-IIが高値となりうる疾患・病態を2つ選べ。
 - (a) 肝細胞癌
 - (b) Lewis 抗原陽性
 - (c) ビタミン B12 欠乏
 - (d) ワーファリン内服中
 - (e) ビタミン K 製剤内服中
4. シェーグレン症候群の診断に用いる検査はどれか。3つ選べ。
 - (a) ガム試験
 - (b) 口唇腺生検
 - (c) パッチテスト
 - (d) 抗 SS-A、抗 SS-B 抗体検査
 - (e) Bence Jones タンパク検査
5. 咬合の不正を生じる骨折はどれか。3つ選べ。
 - (a) 下顎骨体部骨折
 - (b) 下顎骨関節突起骨折
 - (c) 下顎骨筋突起骨折
 - (d) 頬骨弓骨折
 - (e) Le Fort I 型
6. 顎口腔領域に発生する病変について正しいものはどれか。2つ選べ。
 - (a) 歯根嚢胞は炎症や感染とは無関係に発生する。
 - (b) 歯源性嚢胞のうち最も発生頻度の高いのは歯根嚢胞である。
 - (c) 角化嚢胞性歯源性腫瘍が多発する場合、基底細胞母斑症候群を疑う必要がある。
 - (d) 含歯性嚢胞は歯根周囲に発生する。
 - (e) 角化嚢胞性歯源性腫瘍は下顎前歯に好発する。
7. 歯性上顎洞炎について誤っているものはどれか。2つ選べ。
 - (a) 齲歯や歯周炎が原因で生じる。
 - (b) 上顎洞の X 線透過性が亢進する。
 - (c) 片側の~~上顎洞~~に発症することが多い。
 - (d) 歯科用インプラントが原因で起こることがある。
 - (e) 上顎洞前歯が原因歯となることが多い。

8. 口腔癌について正しいものはどれか。2つ選べ。

- (a) 男性よりも女性に多い。
- (b) 発現年齢では若年者に多い。
- (c) 組織型では扁平上皮癌が多い。
- (d) 遠隔転移では肺が多い。
- (e) 部位別では口唇に多い。

9. 前がん病変はどれか。2つ選べ。

- (a) 色素性乾皮症
- (b) 梅毒性舌炎
- (c) 白板症
- (d) 紅板症
- (e) 口腔扁平苔癬

10. 関係のある組み合わせはどれか。3つ選べ。

- (a) 乳頭腫 — パピローマウイルス
- (b) 口腔扁平苔癬 — 帯状疱疹ウイルス
- (c) Koplik 斑 — ヘルペスウイルス
- (d) Fordyce 顆粒 — 異所性皮脂腺
- (e) 黒毛舌 — 長期抗菌薬使用

11. 唾石症について正しいものはどれか。

- (a) X線透過性のものが多い。
- (b) 耳下腺に好発する。
- (c) シェーグレン症候群に合併する。
- (d) 舌下腺に好発する。
- (e) 摂食時に疼痛が増強する。

12. 唾液腺癌のうち、病理組織型が高度悪性であるものはどれか。

- (1) 腺房細胞癌
- (2) 上皮 - 筋上皮癌
- (3) 唾液腺導管癌
- (4) 腺様嚢胞癌（充実型）
- (5) 転移性多形腺腫

- (a) 1、2 (b) 2、3 (c) 3、4 (d) 4、5 (e) 1、5

13. 下咽頭癌について正しいものはどれか。

- (1) 輪状後部癌は女性に多い。
- (2) 大半は梨状陥凹に生じる。
- (3) T2、T3 例では喉頭を含めた根治切除を行う。
- (4) ヒトパピローマウイルス感染は予後予測因子になる。
- (5) 初診時局所進行癌であることが多い。

- (a) 1、2、3 (b) 1、2、5 (c) 1、4、5 (d) 2、3、4 (e) 3、4、5

14. 次の文章のうち正しいのはどれか。2つ選べ。
- (a) 中腸回転異常では 270° 回転型が最も多い。
 - (b) 腸重積の代表的な画像所見として、target sign や pseudokidney sign がある。
 - (c) 小児の腸重積が生じやすい部位は横行結腸である。
 - (d) Hirschsprung 病は壁内神経節細胞の欠如が原因で、腹部膨満や腸閉塞をきたす。
 - (e) 腸重積は学童期に多い。
15. 次の文章のうち誤っているのはどれか。2つ選べ。
- (a) 外鼠径ヘルニアは小児に多い。
 - (b) 急性虫垂炎の病期として、カタル期、蜂窩織期、壊疽期がある。
 - (c) 大腿ヘルニアは嵌頓をおこしにくい。
 - (d) Meckel 憩室では、 $^{99m}\text{TcO}_4$ を用いたシンチが行われる。
 - (e) Closed loop が形成されている腸閉塞は保存的に経過観察できることが多い。
16. 次の文章のうち正しいのはどれか。
- (a) 非閉塞性腸管虚血 (NOMI) の予後は比較的良好である。
 - (b) Crohn 病と潰瘍性大腸炎を比較すると、潰瘍性大腸炎の方が穿孔を生じやすい。
 - (c) 閉鎖孔ヘルニアは内ヘルニアに分類される。
 - (d) 急性憩室炎では外科的治療が選択されることが多い。
 - (e) 成人の腸重積の原因としては、腫瘍性病変が多い。
17. 注腸造影検査で一般的に認められる大腸の解剖学的特徴について正しいのはどれか。
- (a) 下行結腸は盲腸より径が太い。
 - (b) 下行結腸では上行結腸に比して結腸膨起が目立つ。
 - (c) 横行状結腸は固定された腸管で可動性に乏しい。
 - (d) 上部直腸と下部直腸の境界は経験的に上直腸襞に一致するとされている。
 - (e) 盲腸と上行結腸の境界は回盲弁の上唇レベルである。
18. 大腸 CT について正しいのはどれか。2つ選べ。
- (a) 前処置を必要としない。
 - (b) 炭酸ガスを拡張に用いる。
 - (c) 平坦病変の検出に有用である。
 - (d) 4 列未満の多列検出型 CT 装置が検査に適している。
 - (e) バリウムを標識剤として用いる。
19. 食道癌の放射線治療について正しいのはどれか。
- (a) 日本では $60\text{ Gy}/30$ 回の照射が行われることが多い。
 - (b) 欧米では $80\text{ Gy}/40$ 回の照射が一般的である。
 - (c) 日本では扁平上皮癌より腺癌の割合が高い。
 - (d) アルファベット の M の字に似た “M 字照射” がよく行われる。
 - (e) 飲酒や喫煙は食道がんの発生リスクにならない。
20. 直腸癌の放射線治療について正しいのはどれか。
- (a) 直腸癌は基本的に全例が放射線治療の適応である。
 - (b) 術後再発での疼痛緩和に効果が期待できる。
 - (c) 肛門肝癌は若年男性に多い。
 - (d) 全直腸照射が行われる。
 - (e) 日本では直腸癌より肛門肝癌の方が頻度が高い。

21. 45歳男性。直腸後壁、歯状線口側3cmに下縁を有する病変（20×20mm）を認め、経肛門的に局所切除を施行した。今後の治療として適切なものを選び。

- (1) m癌で断端陰性だったので、経過観察を行う。
- (2) sm癌（高度浸潤sm3）だったので、閉鎖リンパ節郭清を伴う直腸切除術を行う。
- (3) sm癌（中等度以上の浸潤sm2～3）で断端陽性であったため、局所的に再切除を行う。
- (4) sm癌（中等度浸潤sm2）であったので、自律神経温存直腸切除術を行う。
- (5) sm癌（軽微な浸潤sm1）だったので、経過観察を行う。

(a) 1、2、3 (b) 1、2、5 (c) 1、4、5 (d) 2、3、4 (e) 3、4、5

22. 疾患と術後早期に起こりうる合併症の組み合わせとして適切なものを2つ選べ。

- (a) 食道癌 — 骨盤内膿瘍
- (b) 食道アカラシア — 嗝声
- (c) 胃癌 — 脾液瘻
- (d) 上行結腸癌 — 排尿障害
- (e) 直腸癌 — 射精障害

23. 大腸癌について正しい組み合わせはどれか。

- (1) 早期下部直腸癌では、経肛門的、経括約筋的、経仙骨的腫瘍摘除術も適応となる。
- (2) 直腸癌術後の局所再発は稀である。
- (3) 進行直腸癌に対して放射線治療が行われることはない。
- (4) 肝転移、肺転移の頻度は結腸癌と直腸癌との間に差が認められる。
- (5) 結腸癌、直腸癌ともにCEAは有用な腫瘍マーカーである。

(a) 1、2、3 (b) 1、2、5 (c) 1、4、5 (d) 2、3、4 (e) 3、4、5

24. 食道表在癌の治療法の選択で正しい組み合わせはどれか。

- (1) m1癌はEMR（内視鏡的粘膜切除術）の適応である。
- (2) m2癌には脈管侵襲が認められるため、根治手術の適応となる。
- (3) sm癌は早期癌のためリンパ節郭清は不要である。
- (4) sm2・sm3癌ではリンパ節転移の頻度が高いため、根治手術の適応となる。

25. 食道がんの手術について正しいものはどれか。

- (a) 肺転移を伴う進行食道癌はリンパ節郭清が無意味なので、食道抜去術が適応である。
- (b) 左側に食道癌の中心部が存在する場合には、左開胸による食道切除術が適している。
- (c) 胸部上部食道（Ut）の進行癌は、頸部のリンパ節にも転移しやすいので覚醒が必要である。
- (d) 後縦隔経路再建は縫合不全が少なく、高齢者に適している。
- (e) 再建臓器としては小腸を用いることが多い。

26. 結腸癌について正しいものはどれか。

- (1) 潰瘍浸潤型が多い。
- (2) 左側結腸癌はイレウスをきたしやすい。
- (3) S状結腸癌の頻度が最も多い。
- (4) 血行性転移臓器は肝臓が最も多い。
- (5) 結腸癌の再発形式は、肝転移より腹膜播種の方が多い。

(a) 1、2、3 (b) 1、2、5 (c) 1、4、5 (d) 2、3、4 (e) 3、4、5

27. 胃癌の術後合併症について正しいものはどれか。

- (a) 術後に吻合不全を生じた場合、その後に吻合狭窄となることがある。
- (b) 噴門側胃切除術後の小腸間置再建術は摂取した食物の貯留能保持が主な目的である。
- (c) 逆流性食道炎に対しては、逆流防止のための再手術が第一選択である。
- (d) 早期ダンピングの症状は血糖値の急速な変動に起因するものが多い。
- (e) 胃切除後には鉄欠乏性貧血は稀である。

28. 胃癌に対する幽門側胃切除術で通常切離される血管はどれか。

- (1) 胃十二指腸動脈
- (2) 左胃動脈
- (3) 右胃動脈
- (4) 右胃大網動脈
- (5) 右下横隔動脈

- (a) 1、2、3 (b) 1、2、5 (c) 1、4、5 (d) 2、3、4 (e) 3、4、5

29. 腸管感染症について、正しいものはどれか。

- (1) 免疫抑制状態では、サイトメガロ腸炎が発症する可能性がある。
- (2) 偽膜性腸炎の薬物治療の第一選択はバンコマイシン経口投与である。
- (3) アメーバ赤痢の確定診断には便培養検査が必須である。
- (4) 回盲部の腸結核は稀である。
- (5) 腸管スピロヘータ症は重症化した後に発見されることが多い。

- (a) 1、2 (b) 1、5 (c) 2、3 (d) 3、4 (e) 4、5

30. A 型胃炎について、正しいものはどれか。

- (1) 大球性貧血を合併することがある。
- (2) カルチノイドが多発することがある。
- (3) *H. pylori* 感染がある場合は発症しない。
- (4) 主細胞が主に障害されて起こる。
- (5) 病変は前庭部 (antrum) 中心の分布となる。

- (a) 1、2 (b) 1、5 (c) 2、3 (d) 3、4 (e) 4、5

31. 大腸疾患の分類法、病因、及び組織像について、正しいものはどれか。

- (1) Duke's 分類は大腸がんの肉眼形態の分類である。
- (2) 家族性大腸腺腫症は *K-ras* 遺伝子の germline mutation が原因とされる。
- (3) クロウン病は乾酪壊死を伴う類上皮肉芽腫が特徴的である。
- (4) 潰瘍性大腸炎の活動期には陰窩膿瘍が見られることが多い。
- (5) Goligher 分類は痔核の病期分類である。

- (a) 1、2 (b) 1、5 (c) 2、3 (d) 3、4 (e) 4、5

32. 胃、及び十二指腸疾患の病因、組織像について正しいものはどれか。

- (1) MALT リンパ腫は *H. pylori* 感染と関係がある。
- (2) Gastrointestinal stromal tumor (GIST) の約 90% は免疫染色で c-KIT 陽性である。
- (3) セリアック病は *Tropheryma whipplei* の感染が原因とされる。
- (4) 胃生検材で adenoma は Group 4 に分類される。
- (5) Borrmann 分類は癌の壁深達度、リンパ節転移で判定する。

(a) 1、2 (b) 1、5 (c) 2、3 (d) 3、4 (e) 4、5

33. 胃癌に関連して正しいものはどれか。

- (a) 早期胃癌とは、癌腫が粘膜下層までにとどまるものであり、かつリンパ節転移を認めないものである。
- (b) 大きさ 25 mm の IIc 肉眼的粘膜内癌 分化型癌 UL1 と判断される病変は ESD の絶対適応病変である。
- (c) 大きさ 25 mm の IIc 肉眼的粘膜内癌 未分化型癌 UL0 と判断される病変は ESD の適応拡大病変である。
- (d) 内視鏡的に腫瘍が一括切除され、切除標本が 3 cm 以下の分化型優位で pT1b (SM1) であり、かつ HM0、VM0、Ly0、V0 であった場合を内視鏡的根治度 B (eCuraB) 都市、追加外科手術の適応となる。
- (e) Stage IV 手術不能進行再発胃癌に対して化学療法を施行すると生存期間中央値は 3 年程度である。

34. 胃疾患に関する次の記述のうち正しいものはどれか。

- (a) 手術不能な進行胃癌の治療として、メチル酸イマチニブが有用である。
- (b) 胃に発生する悪性リンパ腫の中で、頻度が高い組織型は DLBCL (Diffuse large B-cell lymphoma) である。
- (c) A 形胃炎に伴うカルチノイドは予後不良である。
- (d) 胃 DLBCL (Diffuse large B-cell lymphoma) の治療として *H. pylori* の除菌治療が有効である。
- (e) *H. pylori* 感染は成人以降に感染する。

35. 食道疾患に関する次の記述のうち正しい組み合わせを選べ。

- (1) 食道異物は第 2 狭窄部に最も多く見られる。
- (2) 胸部中部食道 (Mt) は漿膜に覆われている。
- (3) 食道アカラシアの分類として Los Angeles 分類がある。
- (4) 早期食道癌は、原発巣の壁深達度が粘膜内にとどまり、リンパ節転移の有無は問わない。
- (5) RC サイン陽性を伴う食道静脈瘤は治療適応である。

(a) 1、2 (b) 1、5 (c) 2、3 (d) 3、4 (e) 4、5

36. 小腸腫瘍について正しいのはどれか。

- (a) 小腸癌は回腸に好発する。
- (b) カルチノイドは空腸に好発する。
- (c) 悪性リンパ腫は回腸に好発する。
- (d) Peutz-Jeghers ポリープは腺腫である。
- (e) 平滑筋肉腫は回腸に好発する。

37. 炎症性腸疾患に関する記載で正しいものはどれか。2 つ選べ。

- (a) 内視鏡的あるいは消化管造影で数石像を示すのが潰瘍性大腸炎の特徴である。
- (b) クロウン病では肛門病変の合併頻度が潰瘍性大腸炎より高い。
- (c) 潰瘍性大腸炎の炎症は全層性であり瘻孔や膿瘍形成の頻度が高い。
- (d) クロウン病が進行すると腸管狭窄を来することが多い。
- (e) 炎症性腸疾患の腸管外症状の眼病変としては角膜炎の頻度が高い。

38. 大腸がんについて誤ったものはどれか。2つ選べ。

- (a) 臨床病期Ⅳ期の大腸癌の5年生存率は臨床病期Ⅳ期の胃癌より良好である。
- (b) 粘膜下層深部浸潤癌は内視鏡的粘膜下層剥離術（ESD）の適応である。
- (c) 大腸癌の発生は adenoma-carcinoma sequence で説明されるため、大腸の腺腫性ポリープは摘除の適応となる。
- (d) 早期大腸癌ではリンパ節転移はない。
- (e) 早期大腸癌の組織型は未分化型腺癌が最も多い。

39. 次のうちで誤っているものはどれか。

- (a) 胃アニサキス症に対しては虫体の内視鏡的摘出が有効である。
- (b) 胃十二指腸潰瘍の原因の1つに、NSAIDs（非ステロイド性抗炎症薬）の服用がある。
- (c) 機能性ディスぺプシアでは各種検査にて明らかな基質的異常を認めない。
- (d) 胃びらんとは、組織欠損が粘膜層のみの状態のことを指す。
- (e) 10 mm 以上の胃底腺ポリープは癌化を考慮して内視鏡的切除を行う。

40. *H. pylori* について正しいものはどれか。

- (a) *H. pylori* 除菌治療後に再感染を来すことはない。
- (b) Strickland-Mackay 分類のA型胃炎は、*H. pylori* 感染と関連が深い。
- (c) 胃 MALT リンパ腫は *H. pylori* 除菌療法の保険適応である。
- (d) 幼児期に自然感染した *H. pylori* は補々と自然排除される。
- (e) *H. pylori* 陽性の慢性胃炎（萎縮性胃炎）患者は胃癌発生の低危険群である。

*雑感

過去問によくある問題。ガイドラインの改正に伴い、胃癌のステージ分類等は変わっているので、古い過去問と答えが変わってくることも少しありますが、基本レジュメと、過去問を見ておけば大丈夫。

*結果発表：掲示無（落ちた人いないためと思われる）

*再試対象者 0名

*チュートリ：毎週レポートあり

*出席：あり（〇つけてた気がする）

*普段の勉強：『病気がみえる』がおすすめ。胃癌、大腸癌はガイドラインを参考に。